

東京を舞台に様々な分野で活躍する「かごんま」今回登場いただくのは
メイドインジャパンで世界一
受けたいエステを創る
ミス・パリ・グループ代表取締役

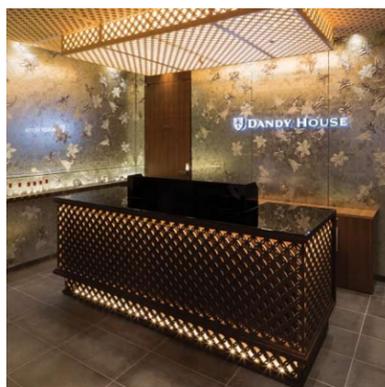
しもむら あけみ
下村朱美さん

ミス・パリ・グループ
株式会社ミス・パリ代表取締役
・学校法人ミスパリ学園理事長
・一般社団法人国際文化協会
(ミス・インターナショナル)会長
・株式会社シェイプアップハウス代表取締役
・Miss Paris Group Ltd.(香港)董事長
・Miss Paris Beauty Ltd.(上海)董事長
・Shape Up House Singapore Pte.Ltd. Director
・NPO法人 ソワンエステティック協会理事長
・IPSN(International Professional Standards Network)理事



「サロンオープンの時8キロ痩せた
のですが、どのような苦勞を
されたのでしょうか？」

オープンしてから4年くらいは、毎日仕事の後にチャラシを400枚配っていたんです。チャラシ配りが終わると午後10時くらいになりますので、それから家に帰って寝る、という暮らしを続けました。その頃はサロンの廊下も壁をつたわらないと歩けないくらいフラフラ。きちんと食べたし寝たと思うんですけど、オープンの時はまだ25歳。サロンを探しにいった不動産屋さんで「坪がわからず困ってしまいうらかったので、慣れないことが多すぎて気を遣ったんです。」
チャラシ400枚配ってもリターンは一人あるかないかですが、それでも何かしなくてはという思いでやっていました。お金も足りなくて、不動産屋さんを紹介してくださった大工さんたち



男のエステ ダンディハウス
☎0120(552)011 <http://www.dandy-house.co.jp>



「美」をつくり出すためには、徹底的に技術と理論を追求する。
お客様の喜びが私たちの喜びです。私はお客様に恋しているのかも。



和SPA 日本の最上のおもてなし。
☎03(6757)6520 <http://www.wa-spa.jp>

がお店を作ってくれたり、健康器具業者さんが機械を作ってくれたりしました。その金額も全部手形で切ったので、どうしても返さなければと必死でした。
「会社の規模を広げた秘訣はなんですか？」
お客様と社員に恵まれたことだと思います。とても素敵なお客様たちが私のことを先生と呼んでくださる。その呼ばれ方にふさわしくなるため、とにかくできるだけ負担をかけず綺麗に健康になれる方法を勉強しました。
そこでラッキーだったのは社員たちもそういう話を素直に聞き一生懸命勉強してくれたことです。社員は20年以上中途採用していません。サロンは大事なお客様さまを触るところですから、新卒で一から育てています。サロンにいてお客様に会うのも嬉しいし、会社に来て社員に会うのも嬉しい、なんとも幸せな人生です。
「拡大したことによって生まれた苦勞はありますか？」

以前は休みの日に自宅に社員をよんで勉強会をして自分で教えていました。しかし今はもう専門学校も5つありますし、そこを卒業した人たちが本社で一年トレーニングをするといった計画のため、若い人の考え方をミス・パリ色に染めるのが苦勞といえは苦勞ですね。古臭いかもしれませんが、日本のしきたりや礼節といった人間として大事な考え方をしっかりと教

えなければいけないと感ずることが増えてきました。日本人としての誇りを気づかせてあげたいです。

また人の持ついいところも悪いところも認めて尊重する力の教育が必要になってきていると思います。鹿児島はまだそういうものが息づいていますが、いまは地域や親せきが子育てに口を出さず、面倒なことを言わない風潮がありますので、代わりにうちの社員にはうちで教えていきたいですし、そういうことに取られる時間が多くなっています。



お客様には幾つになっても恋人にしかくなる様な女性になって欲しい。だからミス・パリ ☎0120(417)644 <http://www.miss-paris.co.jp/>

「社長の考える美しさとはどのようなものですか？」

明るく素直で、感謝できる心と、健康な体を持っていることです。私もちの社員も、美しく聡明で品格ある女性を目指しています。聡明さはサービスマンとしてお客様がほしいことの理解と実践につながります。品格とは人の幸せを喜び、礼節と思い遣りがあることと定義しています。

「華道や茶道で学んだものはどのように役立っていますか？」

茶道からは一番大切なおもてなしの心を学び、華道からは、空間のパランスのとりにかたを学びました。お客様がいらっしゃるときは花を活けてお待ちするようにしています。また、日本中から健康長寿と美しさ、癒しの秘訣を集めたSPAを作りました。私たち日本人は武道や華道、茶道のように「道」を極める心を持っています。その工程に必ずある心の浄化や安定を活かしているのです。

「影響を受けた人物を教えてください。」

母です。母はとても美しい人で、49歳の時にガンで亡くなりました。亡くなる前はつらい手術をして、いろんな管につながれて生きている状態でした。化学治療で髪の毛も抜けてしまっただけでも治療を頑張る人だったので見ているのがつらくて、ある時母に早く楽になりたいと思わないのか尋ねました。すると母は、「私たちは神様に命を頂いて天から修行に送られたの。修行中なんだから辛くて当然、時々楽しいことがあったらこれはもうけものだから思いなさい。神様から頂いた命だから一生懸命生きなさいとね。修行が終わったらまた天国に帰れるんだから」と答えたのです。

さらに父から聞いた話ですが、母が亡くなる一週間くらい前に寝ながら泣いていたので、起こして話を聞いて

たところ、母の両親が迎えに来たと言ったそうです。

この二つを聞いて、私が若いときから持っていた死への恐怖がなくなりました。そしていつか天国に帰るまで、一生懸命生きて修行しなければと強く思いました。それが母の最期の教えです。

「これから世の中に羽ばたいていく女性に一言お願いします。」

自立してほしい、依存しない方がいいです。社長業でも一番怖いのが依頼心で、これを絶対捨てないと社長というのはやっていけません。社長と最後の一人にもなるわけですから、自分で決める心は必須。世の女性もそうやってほしい、自立をしてほしいと思います。

自立とは自分で食べていくことです。子供を育てるのも一大事業です。いい子を育ててほしいですが、できたら仕事もしてほしいと思いません。ご主人からDVを受けていて、別れても住むところも生活力もないからと我慢している女性を見かけます。そうするとだんだん誇りがなくなってしまう。女性にも生活力があれば、誇り高くフェアにおつきあいができるんじゃないかと思うんです。

「鹿児島の方々にメッセージをお願いします。」

鹿児島はすごくハイカラなところ

です。着物などを見ていても、美しいものが好きで人たちが鹿児島には多いと思います。だから美しいものをアピールして観光客をたくさん呼んでほしいです。
鹿児島の人古くから、外の人を平気で受け入れる度量みたいなものがあります。知恵を出し合っ、観光客にたくさん来てもらってお金を落としてもらえようにもっとやってほしいです。さらに鹿児島には日本にある全種類の温泉があるんです。温泉はあるし海の幸もおいしいし、どんどんアピールしてたくさん観光客を呼べるようにしてほしいなと期待しています。



今年、鹿児島に帰省するの、とっても楽しみな。同窓会で みんなに会えるから

取材、文 写真 エム(前田由紀子)



エム(クリエーター)
1990年、ダンスを学ぶために渡米。帰国後、振付家・香瑠鼓氏の振り付け助手としてCM、PV、舞台など100本以上の作品を手掛ける。現在、だるま座所属の舞台女優(エム)として『煙が目にしみる』(劇団だるま座)『溺れる』(劇団妄想侍)『花の下にて』(テトラクロマツ)などに出演。



(有)だるま企画
杉並区荻窪5-22-12戸ビル201 電話03-3392-9779 info@daruma-za.net
1996年8月 代表劇持直明を中心とし、『東京ファールチップ』で旗揚げ。
2001年9月 杉並区荻窪に「アトリエだるま座」として作品発表スペース兼稽古場を構える。
2005年3月 劇団名を『劇団だるま座』に改称。荻窪の商店街に拠点置き、誰もが楽しめるだるま座独自の感性が光る芝居創りを続けている。
杉並区荻窪5-10-22 三好屋ビルB1 www.daruma-za.net